せつめい文を　読む　こと

なまえ

がくしゅう日　／

ポイント

○せつめい文を　読み、内ようを　とらえましょう。

ドリル

◆ **つぎの　文しょうを　読んで、あとの　もんだいに　答えなさい。**

小学二年生の　みなさんは、一年生の　ときに、いくつもの「かん字」を　勉強して　いますね。「一」「二」「三」といった　かん数字から、「人」「山」「木」「中」などと　いった　ものまで、かん字には　とても　たくさんの　しゅるいが　あります。

ここでは、かん字の　うち　ほんの　一部を　とりあげ、その　なりたちを　少しだけ　勉強して　みましょう。

たとえば「人」と　いう　字が　あります。これは　もともと、一人の　人が　足を　ひらいて　立って　いる　ようすを　かたどって　作られました。「山」も、山なみが　連なる　ようすを　そのまま　かたどって　作られました。「川」も、川の　ながれる　ようすから　作られました。そう　思って　これらを　見ると、「人」の　字は　人に、「山」の　字は　山に、「川」の　字は　川の　ながれに、それぞれ　見えて　きませんか。

［※］、「木」と　いう　字が　あります。木の　根もとや、太い　ぶぶんを、「もと」と　いいますね。では　この「もと」は、かん字で　どう　書くかと　いうと、「本」と　書きます。「木」の、根もとの　ぶぶんに　しるしを　つけた　きごうが、そのまま「本」と　いう　かん字に　なって　いるのです。はんたいに、木の　先っぽ、細い　ぶぶんは「すえ（こずえ）」と　いいますが、これを　かん字で　書くと「末」と　なります。この　字は、「木」の　先の　ほうに　しるしを　つけた　形から　きて　いるのです。おもしろいですね。

ほかにも、「中」と　いう　字は、わくの　中に　さおを

通した　形から　きて　いるのだそうです。その、わくの中へ　通すと　いう　ところから、「なか」と　いう　意味の　かん字に　なったと　いう　わけですね。

　かん字には、ここに　あげた　ものの　ほかにも、まだまだ　たくさん　あります。これからも　かん字を　楽しみながら　勉強して、あらゆる　かん字を　思いの　ままに　使いこなせるように　なって　ください。

(1)　＝せんぶ「これ」とは、何を　さして　いますか。書いて　答えなさい。

(2)　※ に　入る　ふさわしい　ことばを　つぎから　一つ　えらび、①から　④の　番ごうを　書きなさい。

①　だから　②　でも

③　それとも　④　また

(3)　文しょうの　内ようと　合って　いる　ものを　つぎから　一つ　えらび、①から　④の　番ごうを　書きなさい。

①　かん字は、勉強して　思いの　ままに　使えるように　なっても、あまり　おもしろい　ものでは　ない。

②　「木」と　いう　かん字の　先に　しるしを　つけて　「本」、根もとに　しるしを　つけて　「末」と　いう　字が　できた。

③　「中」と　いう　かん字は、さおを　わくの　中へ　入れた　形から、「なか」と　いう　意味の　字と　して　作られた。

④　かん字を　調べて　いくと、おもしろおかしい　形を　した　ものが　多く、わらって　しまう　ことが　ある。

せつめい文を　読む　こと

ドリル

かいとう

◆

(1)（れい）「人」
というかん字

(2) ④

(3) ③

ヒント

◆

(1) すぐ　前の「たとえば『人』と　いう字が　あります」の　ぶぶんから、ささされて　いる　ところだけを　まとめます。

(2)「人」と　いう　字に　つづけて、「木」と　いう　字を　れいに　あげて　いるので、「また」を　入れます。

(3) ③は、「ほかにも、『中』と　いう字は」から　はじまる　だんらくの内ようと　合って　います。